

<真剣味>88

2018. 7. 22

『 獲るぞ。NO. 1! 』

7月1日にヤングリーグと練習試合をさせていただきました。その際の取り組み方が最上級生として下級生にお手本となる行動が目につきました。試合への入り方は勿論のこと、その後の反省会の取り組み方、グラウンド整備への入り方、スタンドでの下級生の応援の態度といい、生徒の成長とコーチ陣の指導が見えた1日でした。

上級生は8月前半の大会が最後となり、それに向けてさらに努力していくものと思います。

<見ていて感動するプレー>

大リーグ・ナショナルズのシャーザー投手の全力のプレー。サードダッグアウト前にファールボールが飛んだ時に三塁手・捕手そして投手であるシャーザーが必死な姿で追っかけていました。びっくりと同時に素晴らしいスピードでした。とにかく自分の視界に入ったボールに対してはアグレッシブな態度で取り組んでいました。

一生懸命な姿勢はやる気になれば、誰にでもできるはず。その必死に取り組む姿勢は仲間に力を与えたり、また仲間から認められたりします。3年生は最後です。照れ隠しせず、自ら仲間の中に入り大きな声を出し、さらに新しい自分を発揮して見てください。そのためには、自らが気づき、早く見えない壁を自分で破ってください。ミスターパン!

<他の種目から学ぶ>

7月4日(水)、5日(木)と中体連の下越地区大会の女子バレーボールの試合を見る機会がありました。体育館内は何か凄まじい熱気でした。やはりこれに敗れると今の仲間とのプレーが最後になることもあり、特に3年生は必死だったと思います。バレーボールの試合を見て感じたことを書かせてもらいます。

- ①勝つチームは、ポジショニングがしっかりし、6人が動いても衝突することなくスムーズに動き、ボールにしっかり対応できていた。
- ②相手側コートから不意(フェイント等)に飛んで来ても良いように、準備・構えがしっかりしていた。
- ③最初に連続失点しても、焦ることなく自分達のプレーをしていればそのうちに、追いつける自信と確信があったように思えた。
- ④監督は試合中課題が見つかり、空いた時間ですぐに矯正に入り、それに選手も対応していた。
- ⑤チーム内がギクシャクしてチームは、集合した時の円陣がうまく作れない、選手の視線も集中しない、指導者の指示が通らないように見えた。
- ⑥鍛えられているチームはミスをして、指導者に強く指導されても仲間のバックアップがあり、試合中に落ち込むこともなく、つぎのプレーに集中していた。試合中に空気を悪くするような表情の選手はいない。
- ⑦昔の教員仲間も相変わらず、アドレナリンを出して元気に指導していた。

<実践を通して成長>

会長杯(準優勝)、2日間で4試合を通して選手の変化が見え、大変良い大会になりました。

○リーダーを中心にまとまりが良くなり、「江南シニア」の色が出てきている。

○キャプテン…選手宣誓の中に英語入れ、苦勞がなかったかのように上手く発表できた。Good!

○捕手…配球に努力し、打者に対し好きにスイングさせないことが多くなった。あとは継続。

○投手…エースの成長は勿論のこと、普段からランニングやバッティング投手などをしながらスキルアップしてきた3人の投手。サウスポー・右アンダースロー・そして右上手投げ。3人の特徴を生かしながらの投球、とても成長しました。

○粘りの江南シニア…相手に得点されても諦めることなく、連打や足を生かしたプレーで得点し、簡単に終わらず粘れるようになってきている。ランナーコーチの成長も Good!

○盛り上げ…ベンチ内での仲間を励ます声、そして守備のあと仲間を出迎える行動など元気よくできるようになった。

△打撃…練習は good ですが、実践でもっと出塁・繋ぐ・返すなどを考え打撃してもらいたい。